

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 葛上秀文
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
現代の学校教育を社会の状況との関係で理解し、教育課題に対応するための教育政策の動向を理解する。			
到達目標			
教育に関する様々な現象を社会的に考察する			
臨床場面における教育課題をマクロ・ミクロの観点から考察する			
授業の概要			
教育社会学とは、様々な教育に関わる現象を、社会的なアプローチで研究する学問である。本授業では受講者の身近な話題を取り上げながら、教育社会学の議論を展開する。前半では受講者にとって最も身近な『学校』を扱う。後半にかけては、マイノリティと教育に関する事例を扱う。本講を通じて、教育に関する様々な現象の社会的側面に関して自ら考察できる力を身につけることを目的とする。			
授業計画			
第1回：教育社会学のパースペクティブ			
第2回：教育社会学の視点から見る（1）－授業－			
第3回：教育社会学の視点から見る（2）－カリキュラム－			
第4回：教育社会学の視点から見る（3）－校則－			
第5回：教育社会学の視点から見る（4）－学校における事故－			
第6回：教育社会学の視点から見る（5）－防災－			
第7回：マイノリティと教育（1）－貧困－			
第8回：マイノリティと教育（2）－外国人児童生徒－			
第9回：マイノリティと教育（3）－差別問題－			
第10回：マイノリティと教育（4）－ジェンダー－			
第11回：マイノリティと教育（5）－LGBTQs－			
第12回：学校と地域の連携（1）－コミュニティスクール－			
第13回：学校と地域の連携（1）－キャリア教育－			
第14回：これからの学校について考える（1）－子供にとっての学校－			
第15回：これからの学校について考える（2）－全ての子供を取り残さない教育－			
定期試験			

テキスト

授業中に適時文献を紹介する

参考書・参考資料等

酒井朗, 中村高康, 多賀太, 2012, 『よくわかる教育社会学』 ミネルヴァ書房

学生に対する評価

成績は授業で課す小レポート(20%)と定期試験(80%)によって評価する。

授業科目名： 教育制度・経営論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石村雅雄
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
本講義は、将来教職に就こうとする者に対して、学校教育がいかなる制度や行政、及び組織・集団によって成立し、またそれらによってどのような影響を受けているかに関する基礎的事項の理解を図り、教育制度及び行政の仕組み及び学校組織・学級集団の構造の視点から、学校教育の課題の考察を深めることを目的とする。具体的には、教育制度の成立、教育行政の組織・運営、学級・学校の集団や組織の経営について、基礎的な事項の理解をはかる。				
授業の概要				
講義中に説明する「何でも帳」に講義ごとに記入し、教員から毎回書かれるコメントを参考にしながら、現代の教育制度、教育経営の諸問題に関し、自分の頭で考察し、見解を表明できるようにする。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション				
第2回：教育・理想と制度との関係　－欧米での展開について－				
第3回：教育・理想と制度との関係　－日本での展開について－				
第4回：近代学校の成立と現代における問題　－義務制について－				
第5回：近代学校の成立と現代における問題　－教育の自由について－				
第6回：近代学校の成立と現代における問題　－非宗教性、無償制について－				
第7回：「学校」で何を、どのように教えるか　－教員の問題について－				
第8回：「学校」で何を、どのように教えるか　－児童・生徒の問題について－				
第9回：「学校」で専門的に教える者としての教員　－教科指導について－				
第10回：「学校」で専門的に教える者としての教員　－教科指導以外について－				
第11回：学校の組織と経営　－学校「経営」について（安全管理・危機管理を含む）－				
第12回：学校の組織と経営　－地域と学校の関係について－　学校運営協議会を中心に				
第13回：学校の組織と経営　－中央政府の問題について－				
第14回：生涯学習・家庭教育と制度としての「学校」				
第15回：新たな教育課題と学校システムの変革				
定期試験				
テキスト				
高見茂監修『必携　教職六法（2023年度版）』協同出版、2022年。				

参考書・参考資料等

文部科学省『諸外国の教育動向2020年度版』明石書店、2021年。

学生に対する評価

講義中に使用される「何でも帳」への参加，講義中の議論への貢献の度合い，自由レポート，以上を自己評価するものとしての筆記試験を総合して行います。

授業科目名： 教育心理学（発達心理を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 皆川直凡、田村隆宏、高原光恵、内田香奈子 担当形態：複数，オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
幼児，児童及び生徒の心身の発達並びに学習の過程について，基礎的な知識を身につけ，それぞれの発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。授業の過程で，学ぶ側から教える側への視点の転換をはかる。到達目標として，下記の3項目を設定する。			
1．発達に関する代表的理論を踏まえ，幼児，児童及び生徒の心身の発達に関する諸概念と，乳児期から青年期までの言語発達・認知発達・社会性の発達についての具体的な内容を理解している。これらの理解を通して，教育における発達理解の意義を理解している。			
2．様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し，主体的学習を支える動機づけや学び方の特徴について，発達の特徴と関連づけて理解している。			
3．幼児，児童及び生徒の心身の発達過程を踏まえ，主体的な学習活動を支える指導や支援の基礎となる考え方と，集団づくりや学習評価の在り方を理解している。			
授業の概要			
乳児期から青年期までの心身の発達とその特徴に関する基礎知識を修得し，教育における発達理解の意義を理解する。幼児，児童及び生徒の学習の諸形態とその過程に関する基礎知識を修得し，発達を踏まえた学習支援と主体的な学習活動を支える指導についての基本的な考え方及び評価の方法を理解する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業のテーマ・到達目標，授業の進め方など）			（担当：全員）
第2回：乳幼児期における知覚・認知の発達			（担当：田村）
第3回：幼児期における思考の発達			（担当：田村）
第4回：性格，情緒・感情の発達			（担当：田村）
第5回：社会性の発達			（担当：田村）
第6回：児童・生徒の発達を支える心理的要因			（担当：内田）
第7回：子どもから大人になること：青年期の子どもたち			（担当：内田）
第8回：児童・生徒における心の健康教育			（担当：内田）
第9回：身体機能障がいと発達			（担当：高原）
第10回：定型発達と非定型発達：発達障がい			（担当：高原）

第11回：様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎	(担当：皆川)
第12回：児童・生徒の主体的・対話的な学習活動を支える動機づけの特徴	(担当：皆川)
第13回：児童・生徒の主体的・対話的な学習活動を支える学び方の特徴	(担当：皆川)
第14回：児童・生徒の発達を踏まえ主体的・対話的な学習活動を支える指導と支援	(担当：皆川)
第15回：全体のまとめとふりかえり	(担当：全員)

定期試験

テキスト

テキストは用いない。必要に応じて、参考書を授業中に指示する。

参考書・参考資料等

- ・『自律的な学習意欲の心理学』（櫻井茂男 著，誠信書房 刊）
- ・『エビデンスベースの教育心理学』（榎本淳子・藤澤 文 編，ナカニシヤ出版 刊）

上記の書籍を参考書として用いるほか，必要に応じて授業中に指示する。

学生に対する評価

定期試験およびレポートの成績に授業への参加態度（課題達成度を含む）を加味し，総合的に評価する。

授業科目名： 発達の多様性に 応える教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 高原光恵、小倉正義 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 学校教育現場では、子どもたちの教育的ニーズが多様化していることが指摘されており、この多様化するニーズへの理解と支援を学ぶことはすべての教員に必要不可欠である。本講では、特に発達の多様性に応える教育を学ぶことをテーマとする。			
【到達目標】			
1 発達の多様性、特別支援教育に関する制度の理念や仕組みについて理解する。			
2 特別な支援を必要とする子どもたちの教育課程を理解する。			
3 多様なニーズのある子どもへの適切な支援方法や環境づくり、学校内外における連携についての基本的態度を学ぶ。			
授業の概要 まず、インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みについて概説したうえで、多様な子どもたちの様々な教育的ニーズについて学ぶ。そして、それらのニーズに応じるための学校現場における教育実践の在り方を検討することで、発達の多様性を応えるための基礎的な知見と実践力を身に付けることを目指す。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション：授業の概要と到達目標、特別支援教育の意義と役割、特別支援教育コーディネーターとは、「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付け、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法、発達の多様性について学ぶ意義（高原）			
第2回 発達の多様性と子どもたちのニーズ①：発達障がい・知的障がいの基礎知識と支援（高原）			
第3回 発達の多様性と子どもたちのニーズ②：視覚障がい・聴覚障がい・肢体不自由・病弱等を含む様々な障がいの基礎知識と支援（高原）			
第4回 発達の多様性と子どもたちのニーズ③：外国にルーツをもつ子どもたちのニーズ（母語・母国語の違いによる困難さも含む）、2E（Twice Exceptional）の子どもたちのニーズ、貧困の問題など、教室の中の様々なニーズについて（小倉）			
※第2回から第4回では、障がい等の基礎知識だけではなく、特別な支援を必要とする子どもたちの教育課程や具体的な支援方法についても学ぶ。			
第5回 子どもの行動の理解と支援（行動理論の基礎知識）：様々なニーズのある子どもたちの行動のアセスメントから具体的な支援方法につなげるための基礎知識を学ぶ。（小倉）			
第6回 学校全体で取り組むポジティブ行動支援：ポジティブ行動支援の考え方と第一層支援について学ぶ。（小倉）			
第7回 学級で取り組む教育のユニバーサルデザイン：ユニバーサルデザインやインクルーシブ教育の基礎知識、発達の多様性に応えるための学級での取り組みについて学ぶ。（高原）			
第8回 家族の思い、保護者との協働（個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成する上での保護者との連携、連携における特別支援教育コーディネーターの役割を含む）、関係機関との連携（連携における特別支援教育コーディネーターの役割を含む）。（高原）			
定期試験			
テキスト			
授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
・村中直人（2020）、ニューロダイバーシティの教科書ー多様性尊重社会へのキーワード、金子書房。他、適宜授業中に紹介する。			
学生に対する評価			
定期試験（80%）、毎回授業時に提出する小レポート（20%）			

授業科目名： 教育課程論（校種間連携を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 幾田伸司、前田洋一、井上奈穂、山田芳明、早藤幸隆 担当形態：複数，オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・教育課程に関する基本的な概念理解を深めるとともに，新指導要領改訂に向けた動向，将来の教育実践に向けての展望と具体的な手立てを得ることができる。 ・社会背景との関連，学習の系統性及び資質・能力の育成の観点から見た教育課程を検討し，校種間連携や教科・領域横断的カリキュラムを踏まえて，その特徴を説明することができる。			
授業の概要 ①わが国の社会背景と学習指導要領との関連を検討する。 ②学力問題をはじめとする教育課程をめぐる諸課題や動向について検討する。 ③将来の教育実践に向けて，教育課程編成の理論と実践例を検討する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 教育課程とは：社会における役割，編成の基本原則（前田） 第2回：学習指導要領について（前田） 第3回：学習指導要領の変遷と時代背景（井上，前田） 第4回：学習の系統性を重視した教科・領域横断的教育課程の編成（幾田，前田） 第5回：資質・能力の育成の観点から見たカリキュラム評価（早藤，前田） 第6回：校種間連携と教育課程：その意義と編成方法（山田） 第7回：カリキュラム・マネジメントと一貫教育（前田） 第8回：カリキュラムと学校・社会に開かれた教育課程（前田） 定期試験は実施しない。			
テキスト 古川治・矢野裕俊ほか編『教職をめざす人のための教育課程論』北大路書房，2015 年 文部科学省『幼稚園教育要領』（最新版），『小学校学習指導要領』（最新版），『中学校学習指導要領』（最新版），『高等学校学習指導要領』（最新版）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付するとともに，参考文献を紹介する。			
学生に対する評価 授業時の取組状況（ワークシート，発表など）（60％），レポート課題とテスト（40％）			

授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 金野誠志、泰山 裕 担当形態：オムニバス
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		総合的な学習の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標				
本授業科目では、地域素材および教材に関する研究、家庭や地域との連携のあり方などについて具体的に提示し、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す指導法、並びに学習活動の評価に関する基礎的知識・技能を身に付ける。				
① 各学校での「総合的な学習の時間」の目標及び内容を定める際の基礎的な考え方を理解する。				
② 具体例を通して、「総合的な学習の時間」の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。				
③ 具体例を通して、「総合的な学習の時間」の指導と評価の基礎的な考え方および実践上の留意点を理解する。				
授業の概要				
探求の過程で、教科等の枠組みを超えて、長時間じっくりと課題に取り組む中で、実生活や実社会でよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくため、ICT教材や機器の使用も考慮し互いの良さを生かしながら、積極的に社会に参画できるような児童・生徒を育成する授業実践力を育成する。特に、前半では、学習指導要領及びその解説についての理解と授業実践との関係性に重点を置き、後半で実際の単元構想や授業実践に必要な資質・能力を養う。				
授業計画				
第1回：「総合的な学習の時間」創設の趣旨と目標及び内容、年間指導計画の作成と教科等との関連（泰山）				
第2回：主体的・対話的で深い学びを引き出す指導・支援（1）－課題発見・課題設定－（泰山）				
第3回：主体的・対話的で深い学びを引き出す指導・支援（2）－追求・まとめ－（泰山）				
第4回：主体的・対話的で深い学びを引き出す指導・支援（3）－発信・表現－（泰山）				
第5回：地域素材の発掘と教材化，家庭・地域との連携のあり方（金野）				
第6回：ICTを活かした「総合的な学習の時間」の授業の計画と工夫（金野）				
第7回：ICTを活かした「総合的な学習の時間」の授業の評価と指導（金野）				
第8回：探究的な学習の過程を意識した単元づくりと実践上の留意点（金野）				
テキスト				
文部科学省『小学校学習指導要領解説書 総合的な学習の時間編』（最新版）				
文部科学省『中学校学習指導要領解説書 総合的な学習の時間編』（最新版）				
文部科学省『高等学校学習指導要領解説書 総合的な探究の時間編』（最新版）				
参考書・参考資料等資料を適宜配付するので自ら綴じて整理すること。				
学生に対する評価				
授業中の課題レポート，テストの提出状況等から総合的に評価する。				

授業科目名： 特別活動指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 岡田康孝、藤田 完
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 特別活動の指導の在り方を理解する。			
授業の概要 特別活動の歴史的変遷を概観するなかで，その意義を明らかにする。また，内容毎に理論と展開事例を考察するなかで，小・中・高等学校における特別活動の基本的性格についての理解を図るとともに，現場における実践上の課題を検討する。さらに学級活動・ホームルーム活動の模擬実践を通して，特別活動の指導の在り方について考察する。			
授業計画 第1回：特別活動の意義と目標 第2回：特別活動の主な内容（1）学級活動 第3回：特別活動の主な内容（2）児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事 第4回：各教科等との関連 及び 家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方 第5回：教育課程全体で取り組む特別活動の指導・取組の評価・改善 第6回：学級活動・ホームルーム活動に関する模擬授業計画の立案 第7回：学級活動・ホームルーム活動に関する模擬授業の実践 第8回：学級活動・ホームルーム活動に関する模擬授業の実践の省察 及び まとめ 定期試験			
テキスト 文部科学省 小学校学習指導要領解説 特別活動編（最新版） 文部科学省 中学校学習指導要領解説 特別活動編（最新版） 文部科学省 高等学校学習指導要領解説 特別活動編（最新版）			
参考書・参考資料等 適宜，参考文献の紹介，関係資料の配付を行う。			
学生に対する評価 講義への貢献状況を重視する。討議への参加，レポートの提出状況，試験などを総合的に判断して評価を行う。			

授業科目名： 教育工学（情報通信技術 の活用を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川上綾子，江川克弘，藤原伸 彦，泰山裕，小倉正義，竹口 幸志
			担当形態： オムニバス・複数
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
教育工学は、学びへの効果的な支援のあり方を実践的立場から実証的に探究していく学問である。本授業では、そのような教育工学的アプローチに基づき、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法・技術の基礎を身につける。特にICTの活用については、Society 5.0 時代に求められる教育のあり方に関する基礎的な知識とともに実践に必要な技術を身につけることを目指す。到達目標は、①教育の方法・技術に関わる基礎的な理論や概念及び育成すべき資質・能力について理解し、説明できること、②育成すべき資質・能力に適した授業・保育の設計・実施・改善ができること、③教育におけるICTの活用について基礎的な知識・技能を身につけ、説明・実践できること、である。			
授業の概要			
まず、第1～5回において、これからの子どもたちに求められる資質・能力及びその確実な育成をめざした授業・保育の方向性、教育方法・学習評価に関する基礎的理論を知り、それらの実践場面への具体的展開について理解を深める。次に、第6～12回において、児童生徒の情報活用能力の育成、GIGAスクール構想下の新たな学び、プログラミング教育等、「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に関わる具体的内容を学ぶ。そして、第13～15回において、これまでに学んだことを活用して具体的な授業の設計・実施（模擬）・振り返りを行う。			
授業計画			
第1回：資質・能力の確実な育成をめざして一主体的・対話的で深い学びとICT環境による個別最適化された学び―（担当：泰山，藤原）			
第2回：教育方法に関する基礎的理論と授業の構成要件（担当：川上）			
第3回：学習評価の基礎及び育成すべき資質・能力を踏まえた評価のあり方（担当：川上）			
第4回：基礎的な学習指導理論の授業実践への展開（1）：学習内容の本質的理解と学習目標，評価規 準・基準の設定（担当：江川）			
第5回：基礎的な学習指導理論の授業実践への展開（2）：効果的な授業展開や学習形態の設定，教材・ 教具の効果的な利用（担当：江川）			
第6回：情報活用能力の育成（担当：泰山）			

第7回：GIGAスクール構想と新たな学びのかたち：GIGA端末を活用した指導と評価，オンライン教育など（担当：泰山） 第8回：GIGAスクール構想に関わる実践事例の検討：学習指導（学校での授業及びオンライン教育）や校務におけるICTの効果的な活用と学校のICT環境整備（担当：泰山） 第9回：情報モラル・情報セキュリティに関する理解と指導（担当：竹口） 第10回：特別の支援を必要とする児童・生徒に対するICTの活用（担当：小倉） 第11回：プログラミング教育と育成すべき資質・能力（担当：藤原） 第12回：プログラミング演習：指導事例の分析と教材の作成（担当：藤原） 第13回：授業設計・実践演習（1）：授業設計と学習指導案の作成（担当：全員） 第14回：授業設計・実践演習（2）：作成した学習指導案の検討，模擬的实践（担当：全員） 第15回：授業設計・実践演習（3）：授業設計・模擬的实践の振り返りとまとめ（担当：全員） 定期試験
テキスト 特に指定しない。授業中に適宜資料を配付する。
参考書・参考資料等 ○小学校学習指導要領（平成29年3月告示，文部科学省） ○中学校学習指導要領（平成29年3月告示，文部科学省） ○鳴門教育大学プログラミング教育研究会（2021）「基礎と実践から学べる小・中学校プログラミング教育」，ジアース教育新社
学生に対する評価 定期試験（60％），模擬授業の活動内容（40％）

授業科目名： 生徒指導論（進路指導を含む。）		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 池田誠喜、岡田康孝、小坂浩嗣 担当形態：オムニバス
科 目		道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標				
・ 生徒指導，進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。				
・ 生徒指導に係る具体的諸課題への対応，全ての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や実際の指導方法を理解する。				
・ 児童生徒が抱える個別の課題に向き合う生徒指導や進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解する。				
・ 生徒指導，進路指導・キャリア教育に係る実践的な資質・能力を修得する。				
授業の概要				
「個性，社会性」を育み「児童生徒の自己実現，社会的・職業的自立」を援助することを目的とする生徒指導，進路指導・キャリア教育の基本的考え方やその視点を踏まえたカリキュラム・マネジメントの意義を解説する。また，学校現場に即した事例・実践例の検討を通じて，生徒指導，進路指導・キャリア教育におけるガイダンスとカウンセリングの考え方をもとに児童生徒理解，指導，援助の意義を考察する。				
授業計画				
第1回：生徒指導の課題 生徒指導の方法 生徒指導の基盤 生徒指導に係る法令(担当：池田誠喜)				
第2回：戦後の生徒指導の歴史 ガイダンスと集団主義教育(担当：池田誠喜)				
第3回：発達支援と生徒指導 カリキュラムと生徒指導の捉え方 生徒指導の機能(担当：岡田康孝)				
第4回：生徒指導と学習指導(担当：池田誠喜)				
第5回：進路指導・キャリア教育の意義と原理の理解(担当：岡田康孝)				
第6回：ガイダンスの機能を活用したキャリア教育の展開とキャリア発達の視点に立ったキャリア・カウンセリングの実践(担当：小坂浩嗣)				
第7回：個別の課題を抱える児童生徒への指導 いじめ・不登校等，現代的課題への対応について(担当：小坂浩嗣)				
第8回：生徒指導体制 教育相談体制 危機管理体制 学校・家庭・地域・関係機関との連携 (担当：池田誠喜)				
テキスト				
文部科学省（2010）「生徒指導提要」教育図書				

参考書・参考資料等

日本生徒指導学会編（2015）「現代生徒指導論」学事出版

学生に対する評価

学習活動、毎時間内のレポートによる授業についての達成度を総合して評価する。

授業科目名： いじめ防止論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 1 単位		担当教員名： 池田誠喜、岡田康孝、小坂浩嗣	
						担当形態：オムニバス	
科 目		道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		生徒指導の理論及び方法					
授業のテーマ及び到達目標							
・ いじめとは何か，いじめはなぜ起きるのか等，いじめに関する基本的理解を深める。							
・ いじめに係る法令や諸施策を理解する。							
・ いじめ防止に係る教師としての実践的な資質を深める。							
授業の概要							
喫緊の教育課題となっているいじめ問題の解決に向けて，いじめ加害・被害の実態，いじめに関する先行研究，いじめに係る法令等を解説するとともに，実際のいじめ事案や具体的場面での対応の検討を通じて，いじめ問題理解といじめ防止の要点を考察する。							
授業計画							
第1回：いじめの社会問題化、いじめの定義・態様・構造(担当：池田誠喜)							
第2回：いじめ防止対策推進法、いじめ防止基本方針、いじめ重大事態について(担当：池田誠喜)							
第3回：ネット上のいじめ、差別といじめ、いじめの国際比較研究(担当：池田誠喜)							
第4回：いじめ防止に係る学校教育の取組【道徳教育、予防教育、学級経営】(担当：岡田康孝)							
第5回：組織的対応と3つ（ナレッジ・リスク・クライシス）のマネジメント(担当：池田誠喜)							
第6回：修復的实践とレジリエンスの育成(担当：池田誠喜)							
第7回：いじめの事例分析と基本的対応について【専門家・関係機関との連携】(担当：小坂浩嗣)							
第8回：いじめ防止の基盤づくり（コミュニティオーガナイズ）（担当：小坂浩嗣）							
テキスト							
文部科学省（2010）「生徒指導提要」教育図書							
参考書・参考資料等							
森田洋司（2010）「いじめとは何か」中公新書							
学生に対する評価							
学習活動、毎時間内のレポートによる授業についての達成度を総合して評価する。							

授業科目名： 教育相談論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉井健治、廣瀬雄一
			担当形態：オムニバス
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
幼児児童生徒の個性の伸長や人格の成長を支援し，また不適応問題の予防及び解決に取り組むためには，教育相談に関する基礎的知識や基本的態度・技法を身につけておくことが必要である。本授業の目的は，教育相談における教師としての基礎的実践力を養うことである。 到達目標は以下の4点である。 ① 教育相談に関わるカウンセリングの基礎的な理論・概念を理解している。 ② 受容，傾聴，共感的理解等のカウンセリングの態度・技法を理解している。 ③ 不登校，いじめ等の課題に対する教育相談の進め方を理解している。 ④ スクールカウンセラー等との連携の意義や必要性を理解している。			
授業の概要			
① 教育相談の意義と課題を理解する。 ② カウンセリングに関する基礎的知識を習得する。 ③ 傾聴の意義や方法を理解する。 ④ 不登校，いじめ等への理解と対応を理解する。 ⑤ スクールカウンセラー等との連携について理解する。			
授業計画			
第1回：教育相談の意義と課題（担当：吉井健治）			
第2回：カウンセリングの基礎用語と基礎知識（担当：廣瀬雄一）			
第3回：カウンセリングの理論（1）精神分析学，等（担当：廣瀬雄一）			
第4回：カウンセリングの理論（2）人間中心療法，等（担当：廣瀬雄一）			
第5回：カウンセリングの理論（3）認知行動療法，等（担当：廣瀬雄一）			
第6回：児童生徒の心理的課題への理解と対応（担当：廣瀬雄一）			
第7回：児童生徒の話を聴くこと（担当：廣瀬雄一）			
第8回：保護者の話を聴くこと（担当：廣瀬雄一）			
第9回：相手の心に近づく聴き方（担当：吉井健治）			
第10回：いじめと不登校（担当：吉井健治）			
第11回：不登校児童生徒への理解と対応（1）十二の技1～4（担当：吉井健治）			
第12回：不登校児童生徒への理解と対応（2）十二の技5～8（担当：吉井健治）			

第13回：不登校児童生徒への理解と対応（3）十二の技9～12（担当：吉井健治）

第14回：教育相談の組織的な取り組み（担当：吉井健治）

第15回：スクールカウンセラー等との連携（担当：吉井健治）

定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

文部科学省（2010）．生徒指導提要

吉井健治（2017）．不登校の子どもの心とつながる：支援者のための「十二の技」．金剛出版

学生に対する評価

授業への参加状況，テスト，レポート等を総合して評価する。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (幼・小・中・高)		単位数：2単位		担当教員名：湯口雅史、湯地宏樹、幾田伸司、金野誠志、藤原伸彦、佐藤美智子、井上奈穂、秋田美代、寺島幸生、鉄口真理子、山木朝彦、伊藤陽介、速水多佳子、高原光恵、小澤大成	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次通年	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 11人					
教員の連携・協力体制 各コース単位，2/15回全体授業を実施（学級経営について，支援を要する子どもについて）					
授業のテーマ及び到達目標 3年次までの科目履修，主免教育実習，学修キャリアノートの筆記等を通して修得・省察してきた知識・技能を確認し，不足している知識・技能等があれば補完・向上させ，教員として必要な資質・能力（①教育者としての人間性，②協働力，③生徒指導力，④保育・授業実践力，⑤省察力）として有機的に統合・形成させる。 【到達目標】①教員としての使命感や責任感をもち，愛情をもって子どもに接することができる。②社会性や対人関係能力を基盤として，他者と協力して職務を遂行することができる。③子どもの個々の特性や課題を理解し，適切な集団作りや学級経営を行うことができる。④教科や保育内容等の知識や技能を身につけ，それらに基づいて指導にあたることができる。⑤自らを省みることにより，行動や思考を改善していくことができる。					
授業の概要 1．子ども理解と学級経営を主題とする演習を行い,自己の知識・技能を確認し,補完・向上させる。 2．教科・保育内容等の指導を主題とする演習を行い,自己の知識・技能を確認し,補完・向上させる。 3．教員養成実地指導講師の講演を聴講し，質疑応答に参加し，レポートを作成する。 4．学修成果を問う演習（口述，筆記等）を行い，教員としての資質能力の修得度を最終確認する。					

授業計画

- 第1回：オリエンテーション／3年次までの学修の省察・教員に求められる資質能力の統合
- 第2回：3年次までの学修の省察・教員に求められる資質能力の統合
- 第3回：子ども理解と学級経営を主題とする講演・質疑応答（1）
- 第4回：子ども理解と学級経営に関する応用演習（集団討論，役割演技など）
- 第5回：子ども理解と学級経営に関する応用演習（集団討論，役割演技など）
- 第6回：子ども理解と学級経営に関する応用演習（集団討論，役割演技など）
- 第7回：後期オリエンテーション，教員インターンシップのふりかえり
- 第8回：子ども理解と学級経営を主題とする講演・質疑応答（2）
- 第9回：教科・保育内容等の指導に関する応用演習（授業研究，指導計画の立案など）
- 第10回：教科・保育内容等の指導に関する応用演習（授業研究，指導計画の立案など）
- 第11回：教科・保育内容等の指導に関する応用演習（授業研究，指導計画の立案など）
- 第12回：教科・保育内容等の指導に関する応用演習（授業研究，指導計画の立案など）
- 第13回：教科・保育内容等の指導に関する応用演習（授業研究，指導計画の立案など）
- 第14回：本授業のまとめと学修成果の確認のための演習
- 第15回：本授業のまとめと学修成果の確認のための演習

テキスト

○文部科学省 生徒指導提要 2010 ○文部科学省 学習指導要領 2027(小・中)，2028(高)

参考書・参考資料等

適宜資料を配付

学生に対する評価

授業への参加状況，テスト，レポート等を総合して評価する。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。